

令和3年12月6日

美深町議会議長 南 和 博 様

産業教育常任委員会委員長 岩 崎 泰 好

## 所 管 事 務 調 査 報 告

本委員会は、下記の事項について閉会中に所管事務調査を行ったので、会議規則第77条の規定により報告する。

### 記

**調査事項 I** 仁宇布小中学校の建替の進捗と山村留学の現状、今後の対策について

**調査内容** ①グラウンド整備と旧校舎解体について  
②今後の生徒確保対策について

**調査日** 令和3年10月22日

**調査方法** 現地視察・聞き取り

### ○現状について

#### ①グラウンド整備と旧校舎解体について

工事は終了し、周囲の芝がまぶしいグラウンドが完成していた。走路面も遠目では舗装のように見えるが、砂等の特殊加工による水はけのいいグラウンドへと生まれ変わっていた。旧校舎の解体も工事は完了しており、冬季間の堆雪場として、一部は職員駐車場として整備された。

#### ②今後の生徒確保対策について

概ね20人程度の児童生徒数確保が必要なことから、ホスターホーム10室・親子住宅10戸が基本的な考え方であったが、現状は6室・6戸が現状。人数を確保したいが、ホスターホームはここ数年満室になっていない現状や全国的な少子化の状況や予算の関係から施設を増設、新設、改築等を考え前進させるか、現状のまま継続させるのか与えられた課題は厳しく重たい。

小規模特認校は導入に向けた課題の整理など、教育委員会議で協議を行った。総合教育会議で議論し、年度内に方向性を出していきたいとしている。

### ○調査のまとめ

・校舎建築時に示されてきた計画目標に則り、ホスターホームの10室・親子住宅10戸の受け入れ態勢を早急にしっかりと実行に移すべき。

- ・小規模特認校の取り組みは、当委員会でも幾度となく進言してきた内容であり、具体的な動きを評価する。
- ・親子留学は、親の働く場の確保にも配慮し、行政の総合的な対応が必要である。
- ・特色ある教育の内容の充実を図るとともに、地域自治会や山村留学制度推進協議会との連携で自然体験や学力向上への取り組みを強化させるべき。

---

**調査事項Ⅱ**      チョウザメ事業の進捗について

**調査内容**      ①飼育用水確保のための工事について  
                  ②えさの確保について

**調査日**        令和3年10月22日

**調査方法**      現地視察・聞き取り

### ○現状について

#### ①飼育用水確保のための工事について

北海道電力仁宇布発電所の導水管メンテナンス工事に伴い、長期間にわたる水源確保が困難になったため、新たな飼育用水確保工事で今年度設計委託費 757 万円を計上し、来年度以降、実施設計及び工事が進められる。

#### ②えさの確保について

生育の実態の中から、生エサ主体による飼育に切り替えて1年経過。天然チョウザメで繋がりがあった漁協から生エサを購入している。単価も格段に安く、漁協のストックの規模から確保に心配はない。

チョウザメの魚体に合わせたエサの切断は手作業のため、作業人員の確保が今後の課題。

### ○調査のまとめ

- ・稼働が順調に進んできた段階で、水の確保は重要な課題である。リスク分散での対応を含めて対策を進めるべき。
- ・計画の甘さも指摘したいが、当初の計画になかった不測の事態であり、財源確保に留意して対応を求める。
- ・キャビアの生産が一定量を達成することにより、単年度の採算ベースに乗るような状況がみられることから、本格的なキャビア販売体制の構築を希求する。